

## 株式の状況

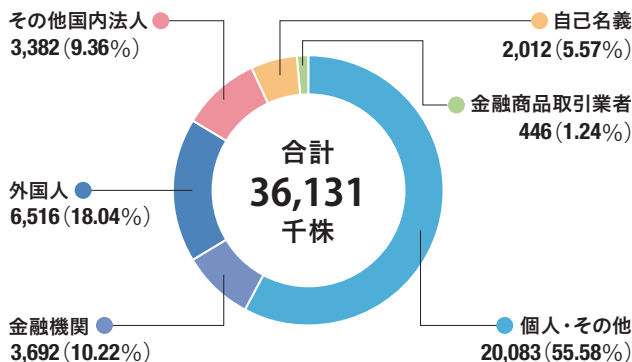
(2014年9月30日現在)

発行可能株式総数……………80,000,000株  
発行済株式の総数……………36,130,796株  
株主数……………9,909名

## 株式分布状況

(2014年9月30日現在)

(単位:千株)



## 株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで  
定時株主総会 毎年6月に開催いたします。  
基準日 定時株主総会の議決権 3月31日  
期末配当 3月31日  
※なお中間配当を行う場合の基準日は9月30日  
(その他必要がある場合は、あらかじめ公告いたします。)

単元株式数 100株  
公告方法 電子公告により行います。  
<http://www.funai.jp/jp/investors/koukoku.html>  
ただし、電子公告によることができないやむを得ない  
事由が生じた場合は日本経済新聞に掲載いたします。  
東京証券取引所市場第一部

上場証券取引所 株主名簿管理人/  
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

郵便物送付先/  
各種お問合せ先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
電話 0120-094-777 (通話料無料)  
〔受付時間9:00~17:00(土、日、祝祭日、年末年始を除く)〕  
ホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

## 船井電機株式会社

〒574-0013 大阪府大東市中垣内7丁目7番1号  
<http://www.funai.jp/>



証券コード:6839

## 第63期 第2四半期

# FUNAI 通信

2014年4月1日~2014年9月30日

## 株主の皆さまへ

株主の皆様には、ますます清栄のこととお慶び申し上げます。  
第63期第2四半期(4-9月)の連結決算が確定しましたので、  
営業の概況とともに今後の戦略などについてご説明します。



代表取締役  
執行役員社長

林 朝則

# ハイライト

## ① 売上高、営業利益ともに計画を達成

	前上期実績	当上期計画	当上期実績
売上高	1,205億円	937億円	1,158億円
営業利益	5億円	5億円	13億円
四半期純利益	6億円	2億円	26億円
期中平均レート (対USドル)	98.64円	100.00円	103.61円

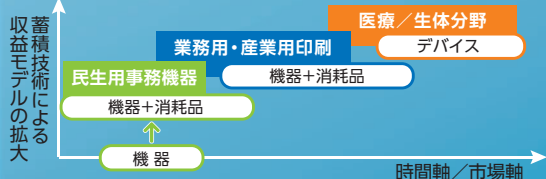
## ② テレビのさらなる深化

市場で求められる機能をタイミングよく製品に反映

高付加価値化	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 60インチ超の大型投入</li> <li>● 4Kテレビも検討</li> </ul>
ネットワーク化	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ネットワークコンテンツ対応の強化</li> <li>● スマートフォン、タブレットとの親和性アップ</li> </ul>
グローバル対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 販売地域の嗜好に対応した仕様</li> <li>● 新興国での地デジ化に対応</li> </ul>

## ③ インクジェット技術の活用

業務用・産業用プリンターや医療・生体分野のデバイスへと展開

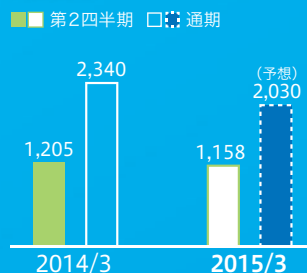


## ④ 通期見通しを上方修正

	期首予想	今回予想	前回予想比
売上高	2,000億円	2,030億円	+30億円
営業利益	5億円	5億円	-
四半期純利益	0億円	9億円	+9億円
期中平均レート (対USドル)	100.00円	102.80円	

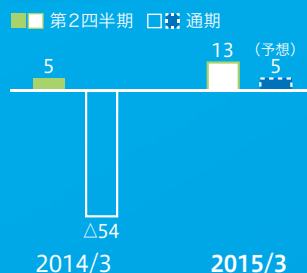
将来の見通しについての注意 / 開示情報のうち過去の事実以外の将来の業績に関する予想及び見通しについては、作成時点でする入手可能な情報をもとにした仮定及び見通しを前提としており、リスクや為替変動など不確定な要因を含んでいます。実際の業績は、経済情勢、市場環境などの変化により、見通しとは大きく異なる場合があります。

## 売上高 (億円)



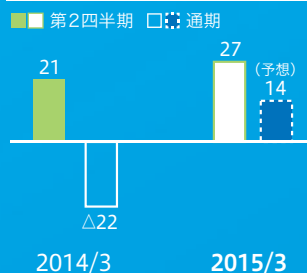
液晶テレビは横ばいであったものの、DVD関連機器、プリンターなどの減収の影響により、売上高は前年同期比3.9%減収の1,158億円となりました。

## 営業利益/損失 (億円)



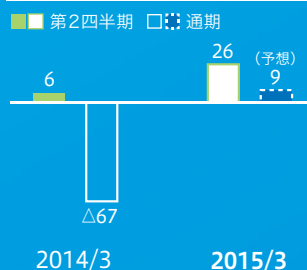
オーディオアクセサリや販社在庫管理の徹底などに取り組んだことから収益が改善したため、営業利益は13億円となりました。

## 経常利益/損失 (億円)



為替差益14億円が発生したことなどから、経常利益は27億円となりました。

## 当期純利益/損失 (億円)



特別利益が2億円発生したものの、法人税等の増加により、四半期純利益は26億円となりました。

## トップメッセージ

**Q** 当第2四半期(2014年4-9月期)の業績は?

**A** 対前年同期比では減収ではあるものの、利益が大幅に改善しました。

主力である映像機器事業では米国の大手量販店向けの販売が好調に推移するとともに、情報機器事業についても、プリンター機器の販売が減少しましたが、インクカートリッジが増収となりました。

これらを主な原因として、当第2四半期の連結売上高は1,158億円(前年同四半期比3.9%減)、営業利益は13億円(前年同四半期比134.8%増)、経常利益は為替差益の計上もあり27億円(前年同四半期比28.8%増)、四半期純利益は26億円(前年同四半期比328.4%増)となりました。対前年同期比では減収であるものの、当期の期初計画を上回る業績となり、増益を達成することができました(→①)。

**Q** 当第2四半期の取り組みや成果は?

**A** 黒字化を目指した取り組みを進め、収益改善の端緒を開くことができました。

前期に発生した問題点について対策を確実に実行し、当期は5期ぶりの黒字化を達成することを目標に、全社一丸となって取り組んでいます。

特に、主力製品である液晶テレビの大型化や年末商戦向け出荷が順調であることに加え、オーディオアクセサリーの売れ筋商品への品目数絞り込みによる効率化、及び在庫管理への取り組みの成果が表れています。コスト管理を徹底し利益を確保する、という意識を全社員が持つことで、収益の改善に向けた端緒を開くことができました(→①)。こうした取り組みの成果は当第2四半期の決算にも表れており、引き続き全力で取り組んでいく考えです。

**Q** 成長戦略の進捗は?

**A** 「既存事業の強化」「新規市場開拓」「新規事業分野展開」の3要素を重視します。

前期に発表した成長戦略に変わりはなく、課題を一つひとつ着実に解決することで、業績を再度成長軌道へのせることが私の役割だと考えています。

例えば、液晶テレビでは60インチ超の大型サイズや、4Kテレビなど付加価値の高い製品をタイミングよく市場に投入していきます(→②)。また、2015年3月を目処にパナソニック(株)から北米における三洋ブランドを使用したビジネスを引き継ぐことでブランドラインナップを拡充する計画です。

また、情報機器ではインクジェット技術を活用して、業務用・産業用プリンターや医療・生体分野のデバイスへと展開し、中長期の収益拡大を目指していきます(→③)。

**Q** 下期の見通しは?

**A** 当第2四半期の業績結果を踏まえて通期の業績計画を上方修正しました。

ここ数年は誠に遺憾ながら、連続して最終赤字を計上する結果となり、株主の皆様大変なご心配をお掛けしておりますが、先述の成長戦略にグループを挙げて全力で取り組み、業績の回復を図っているところです。

今回、当第2四半期の業績結果を踏まえて、通期の業績計画を上方修正しました。新たな成長軌道への基礎固めが着実に進んでおり、5期ぶりの黒字化を目指しています(→④)。

株主の皆様には、当社グループの事業にご理解を賜り、今後とも変わらぬご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役 執行役員社長  
林 朝則